

【實が始球式を行った親善野球試合】

奥州市出身大谷翔平選手所属のロサンゼルス・ドジャースが見事2連覇を果たしたワールドシリーズ。大激戦となった最終第7戦。多くの方が勝負の行方を見守ったことでしょう。ワールドシリーズMVPに選出された山本由伸投手。佐々木朗希投手もポストシーズンにおいて抑えとして大活躍でした。

そんなワールドシリーズの興奮冷めやらぬ、今月の“イッピン”は野球に関連した「實が始球式を行った親善野球試合」の写真をご紹介いたします。

昭和2（1927）年6月20日から8月4日にかけてスイス・ジュネーブで開催された国際軍縮会議（ジュネーブ海軍軍縮会議）。アメリカ、イギリス、日本の代表が参加し補助艦（巡洋艦や潜水艦等）の制限に関する協議がされましたが、アメリカとイギリスの意見が対立。数え70歳のとき、日本全権として出席した實は会議の成功のため両国の調整役に尽力し、妥協案を提示し続けました。最終的に会議は合意に至らず決裂に終わりましたが、国際協調を重視する實の外交手腕は高く評価されました。

会議開催中にイギリス全権が急遽帰国し、会議は一時中断されます。中断中の7月20日両国親善のため開催された日本対アメリカの野球試合では、「会議のまとめ役となっている斎藤全権に始球式をお願いしたい」とアメリカ側から提案されます。これにより始球式を務めた實でしたが、周りからの信頼の高さを伺い知ることができます。軍政家であった實はスポーツと縁遠いイメージですが、毎朝欠かさず体操を30分ほど行い、また、ゴルフに親しむなど、自身の健康に気を遣いながら運動を楽しんでいたようです。

日本時間14日には米大リーグのMVPが発表され、大谷選手が満票で3年連続4度目の受賞に輝きました。惜しくも山本投手のサイ・ヤング賞は受賞ならずでしたが、今後も彼らの活躍に目が離せません。



中央が實。ユニフォーム姿のメンバーらと一緒に。